

## 総論Ⅲ

## 課題提示 — theme —

## ～「いま」と「これから」、「強み」と「弱み」の総括～

「総論Ⅱ 分析」において、1～3の「いま」と「これから」では、「ポテンシャル調査」として、統計データを用い、高根沢町に暮らす町民の方々の動きを「人口」、就労や所得の源泉となる経済活動を「産業・経済」、そして、さまざまな活動の基盤となる自然条件や社会条件を「生活」として捉え、これら3つの分野から高根沢町の今の姿を客観的に整理し、これからの状況を推測する作業を行ってきました。

そして、4・5の「強み」と「弱み」では、「トレンド調査」として、地域住民代表者、農業代表者、商工業代表者（計97名）、次代を担う小中学生（20名）、居所を移動した転出者及び転入者（計83名）を対象に行ったアンケート調査及びインタビューを行いました。

さらに、2013年度に20歳以上の町民2,000人（回答887人）に対して、生活や政策に密着した40分野に関し、それぞれ実感度と重要度を調査した町民意識調査の結果と、今回のトレンド調査の突合を行い、トレンド調査結果を補完する事項を確認したことで、トレンド調査結果の精度を上げてきたところです。

ここでは、これらの積み上げを整理し、高根沢町の現状と課題を総括します。

「人口」、「産業・経済」、「生活」の現状と課題を整理します（図表 1-2-82）。

図表 1-2-82 「人口」「産業・経済」「生活」の現状と課題のポイント

		人口	産業・経済	生活
現 状	ポ テ ン シ ャ ル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少の定着</li> <li>・20代男性の大幅な転入</li> <li>・20代後半には女性も転入超過</li> <li>・30代以降の転出増加によって人口減少へ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水田農業地帯</li> <li>・町内から町外に展開する高度、大規模工業団地の集積</li> <li>・町内には研究所等の技術サービスが立地</li> <li>・ベッドタウン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・典型的な内陸型気候</li> <li>・便利なロケーション</li> <li>・災害が少ない立地</li> <li>・都市と田園の良好なバランス</li> </ul>
	ト レ ン ド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田園環境に恵まれている（転入）</li> <li>・東京、宇都宮に近い（転入）</li> <li>・就労場所に恵まれている（転入）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京、宇都宮に近い（町民）</li> <li>・鉄道、道路の利便性が高い（町民）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田園環境に恵まれている（町民）</li> <li>・地域のつながりが強い（町民）</li> </ul>
	突 合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の実感が高い</li> <li>・教育支援の実感が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工業活性化の実感がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境実感が非常に高い</li> <li>・上下水道実感が高い</li> <li>・住環境は僅かな実感</li> </ul>
課 題	ポ テ ン シ ャ ル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30代以降の流出防止</li> <li>・結婚による転出抑制</li> <li>・出産による転出抑制</li> <li>・子育て世代の流出防止</li> <li>・出生率の上昇</li> <li>・婚姻率の増加</li> <li>・出産、子育て環境の整備</li> <li>・住居環境の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大都市圏へのアクセスを活かした農業（園芸）の展開</li> <li>・多様な就労機会の創出</li> <li>・良質な住居環境の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティの仕組みづくり</li> <li>・アクセスや安全性を活かした工場誘致</li> <li>・都市と田園環境バランスの維持発展</li> </ul>
	ト レ ン ド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅の都合（転出理由）</li> <li>・結婚（転出理由）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労場所が少ない遠い（町民）</li> <li>・買い物利便性が低い（町民）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地制約が多く暮らしにくい（町民）</li> <li>・土地が高く住宅が建てにくい（町民）</li> </ul>
	突 合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援に対する実感が高く、転出者のあげた強みと整合的。支援がありながら、転出する課題が残る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工業の活性化は最も実感されていない分野で、かつ、相応に重要とみられているなど、トレンド調査と整合的。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住環境は重要度が高いにもかかわらず実感に乏しい。土地利用制約が多いというトレンド調査と整合的。</li> <li>・地域自治の実感に乏しく、地域のつながりの強みを活かせていない可能性がある。</li> </ul>

## ■ 「人口」の総括

2006年～2008年をピークに減少に転じている「人口」については、高根沢町の特徴は、多くの都市で、学校卒業を機に就業機会の少ない故郷を離れる傾向があるのに対して、高根沢町では、20代の人口流入と30代の人口流出という大幅な社会増減が見られることです。また、男女ともに30代の人口流出が見られる中で、20代の男性の人口流入が多いために、21-40歳では、男女比が崩れ、町全体で男女比が3：2となっています。こうした現状を踏まえ、「人口」については、子育て世代の生活環境の整備とともに、結婚機会を提供し、女性の流出を防止することも重要な課題となります。

生活環境整備の重要性は、「トレンド調査」にも表れています。町の「弱み」として回答者が上げた上位4項目が「就労場所が少ない、遠い」「土地利用の制約が多く暮らしにくい」「身近な場所での買い物の利便性が低い」「若者が減少、活力がない」となっており、生活環境の総合的な改善が求められていることがわかります。また、子育てに関連する項目として「子育て環境、支援施策、施設が充実している」「教育環境、支援施策、施設が充実している」「高齢者福祉施設、支援施策が充実している」をみると、いずれも「弱み」が「強み」をやや上回っており、改善の余地があることが示されているといえます。

## ■ 「産業・経済」の総括

高根沢町の「産業・経済」の現状については、かつての主力産業であり、現在でも就業者の1割が属する農業を中心とした第一次産業、北部関東の大規模な工業地域の一角を占める第二次産業、本田技術研究所に代表される学術・専門・技術サービスと商業や不動産賃貸等のコミュニティサービスからなる第三次産業からなります。高根沢町への子育て世代の定住を促すためには、「産業・経済」については、多様な就労機会の創出が課題となります。

こうした点は、「トレンド調査」にも表れています。町の「弱み」の最上位に「就労場所が少なく、遠い」が挙げられたほか、町民意識調査の実感度において「商工業の活性化」が最下位となっており、新たな就労機会の創出が大きな課題となっていることが浮き彫りとなっています。

## ■ 「生活」の総括

「産業・経済」や「人口」の動きの基盤を「生活」として捉えると、典型的な内陸型気候で災害が少なく、関東平野の内陸にあって首都圏へのアクセスに優れ、都市と田園からなる多様性のあるコミュニティという特徴があります。

しかしながら、「強み」とされている「地域のつながり」に関連して、町民意識調査において「地域自治」をみると、実感度と重要度のいずれにおいても低い評価となっており、地域のつながりが強いことは認識されているものの、現時点では、必ずしも取り組みに積極的に参加していないものと考えられます。